

# Y校会だより

発行所  
Y校会

〒231-0012  
横浜市中区相生町6-111  
一般社団法人 進交会内  
(電話) 045-681-6575  
(FAX) 045-681-6585

## 『2021年度Y校会幹事会・総会』の開催を延期

令和4年2月に開催を予定していた『2021年度Y校会幹事会総会』をコロナ禍により延期としました。2019年度から3年連続で開催延期または中止となりました。新進交會館での初めての開催だけに今回は是非でも新進交會館で開催をしたいと考えますが、第7波の到来次第となります。

## Y校3年生に租税教室を開催

村上幸宏(昭47卒)

令和3年12月6日、東京地方税理士会横浜南支部の主催で3年生を対象にした税金教室をY校教室にて開催し、講師として50分間教壇に立たせていただきました。

はじめに、進交会がY校生の同窓会であることと進交会のホームページを見てほしい旨を伝えました。そして、本題の税金の話では、「税はどうしてあるの?」「税の役割は何だろう?」をテーマに①公立学校の生徒の一人当たりの教育費や公共サービス、社会資本の整備などへの税金の使われ方、②納税の義務の根拠、③税の分類、④消費税が導入された背景、⑤財政の状況と国債の累計残高について説明しました。次に社会人として身近になる所得税について、実際に源泉徴収票に基づき確定申告書の作成をしてもらいました。

結びに当たって、脳科学者の茂木健一郎さんの「脳に負担をかけることが、脳の喜びになると気付いた人は、伸びる」という言葉を借りて、これまでに学んだこと、これから学ぶことを物づくりやサービスの提供につなげて、ご家族や社会に生かして欲しい旨のエールを送り租税教室を終了しました。



(Y校教室於)

## 森鷗外記念館を訪ねて

事務局 安川栄一(昭44卒)



神崎政敏(昭27卒)さんの勧めにより、3月31日(木) Y校会副会長・企画運営委員長の大宮勲(昭48卒)さんと森鷗外記念館を見学してきました。記念館は森鷗外の旧居宅で1,056㎡(320坪)の敷地に255㎡(約77坪)の建物があった場所です。当時は2階から東京湾が見えたので、森鷗外が観潮楼と名付けたとのこと。しかし、今は高層ビルの乱立でスカイツリーの一部が見えるだけのようです。

入口で係員の女性に、Y校の校歌の資料を見せ作詞者が森鷗外だと説明しましたが、「そう言えば最近、高校の卒業生の方がよくみえる」程度の返事だけで、Y校という言葉は聞けませんでした。誠に残念な思いです。展示室はB1Fで森鷗外の幼少～東大医学部～陸軍軍医～日露戦争～作家生活～死去迄の写真、手紙等が展示され、映像コーナーでは森鷗外の写真、著名な友人、知人との逸話等が映し出され、約30分視聴し見学の所要時間は約90分でした。



(正面外観)

大正5年に美澤進先生がY校の校歌の作詞を依頼するためにこの森鷗外宅を訪問し、この旧居宅の書斎で森鷗外がY校の校歌を作詞したことを想像するとY校のもう一つのルーツを感じざるを得ませんでした。そしてそのわずか6年後の大正11年に森鷗外は病没していますが、まるでY校校歌の作詞に全精力をつぎ込み使い果たしてくれたのではないかと感無量の思いがします。(かなり誇張した言い方ですが!!)

帰路は谷中銀座を経てJR日暮里駅までY校の校歌を口ずさみ、約30分そぞろ歩きしてきました。

### 【森鷗外記念館】

所在地：東京都文京区千駄木1-23-4

電話：03-3824-5511

アクセス：東京メトロ千代田線「千駄木」駅下車  
1番出口、徒歩5分

開館時間：10:00～18:00

休館日：第4火曜日、年末年始、展示替期間

観覧料：300円

## Y校校歌と森鷗外

内田正雄 (昭35卒)

『栄行く御代の民草我等…』で始まるY校校歌の作詞は横浜市歌と同じく森鷗外である。鷗外は「阿部一族」「山椒大夫」「大塩平八郎」など歴史小説を書く文豪として名高いが市歌・校歌も200近い作品があると言われている。私の手元に「森鷗外博士作の校歌制定ー博士、深く先生に傾倒さるー」と題されたA4紙コピーがある。Y校同窓會が昭和12年に発行した書物「美澤先生」に掲載された文章のコピーと思われる。なぜ、Y校校歌の作詞者が森鷗外になったのかを知る貴重な内容であるため、部分を引用する。



『森鷗外博士作、小松耕輔氏作曲の校歌が制定されたのは、大正5年であった。職員会議の席上で、校歌を制定しては如何との議が、一職員から提案された。美澤先生はこの提案を即座に採用され、作詞は鷗外博士にお願いすることに決めた。数日後、博士は訪問した先生の申し出を聴かれ言下に快諾する。先生は内容について、学校の教育方針である学則と校訓の精神を酌入れてほしいと語られ、博士は「まことにご同感です。早速作ませう」といわれた。原稿を受け取りに向いた武井氏に対して博士は「Y校はよき校長を得た、あの方ならば、こちらから進んで作ってあげたい」とまで言われた。先生の飾らざる率直な弁、真摯熱心なる態度に、博士は心から敬服されたのである。

Y校に入学してすぐ、新生は放課後に応援団の先輩から校歌と応援歌の特訓を受ける。暴力こそ無いが怒鳴られ、脅かされての長時間の練習には閉口した。しかし、その甲斐あってか横浜平和球場での野球の応援、他校との交流戦などに声高らかに斉唱出来た。Y校校歌に対しての思い出は限りないが、硬式野球部が甲子園で勝った後、隣同士で肩を組み、身体を揺らして歌うのは格別である。Y校野球部は春夏合わせ16回甲子園に出場している。幸運にも大阪に転勤していた私は、昭和54年夏宮城投手を擁しての出場以来、何度もアルプス席で校歌を歌うことが出来た。

もう一つは、平成13年9月横浜Y校会の「森鷗外と津和野の旅」に近畿Y校会のメンバーも同行した。2日目に津和野の「森鷗外記念館」で、他の入館者が何ごとかと訝かる中、参加者全員が中庭に整然と並び校歌を斉唱した。忘れ難い思い出である。



(島根県津和野町 森鷗外記念館)

「森鷗外と校歌」でインターネット検索をして松本深誌氏の「鷗外によって校歌が作詞された」で「公立の伝統校」と言う掲載を見つけた。要約すると『それは関東の中等野球をリードしてきた横浜市立横浜商業高等学校である。校章および学生帽・野球部のユニホームのマークからY校という愛称で親しまれて全国的に有名である』以下Y校の創立時からの歴史や硬式野球部の歴史を記してあり、まるでY校のホームページのようだ。関心のある方は是非、検索して見て頂きたい。

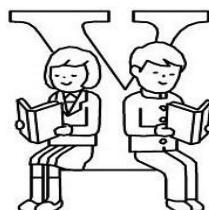
### ◎ 今、Y校図書館だより

#### 「Yプラリー」が面白い。

Y校ホームページ → 学校生活  
→ 施設紹介 → 図書館 から  
Y校図書館だよりの「Y校アーカイブ」  
を見て下さい。

Y校に保存されている過去の興味深い  
資料が取り上げられ  
ています。

興味のある方は是非  
一度ご覧ください。  
結構面白いです。



### Y校会会費高額納入者

(令和3年9月～令和4年3月31日)

ありがとうございました。

( ) 内卒年、敬称略

#### ◎ 20,000円

森下 正勝 (昭37)  
田宮 国興 (昭39)  
相原 敏貴 (昭41)

#### ◎ 15,000円

大宮 勲 (昭48)

#### ◎ 12,000円

石井 喜代志 (昭46)

#### ◎ 11,000円

深谷 悦男 (昭26) 山田 幸夫 (昭27)  
北島 崇弘 (昭28) 星野 匡 (昭53)

#### ◎ 10,000円

湯浅 一馬 (昭23)	伊澤 信行 (昭23)
榎田 誠夫 (昭28)	石田 靖幸 (昭29)
鳥海 邦博 (昭29)	岡田 寛明 (昭29)
大塚 隆 (昭29)	鈴木 玲子 (昭30)
中崎 田鶴子 (昭30)	松井 薫子 (昭30)
岡本 征三 (昭32)	増田 忠士 (昭33)
手塚 幸子 (昭33)	箸 秀子 (昭33)
荒井 良國 (昭33)	森 洋子 (昭35)
宮森 裕三 (昭35)	高松 ミサエ (昭39)
二見 泰弘 (昭39)	新田 弘子 (昭39)
渡辺 義由喜 (昭39)	友野 義之 (昭40)
大胡 隆司 (昭40)	鷺沢 和彦 (昭40)
荒井 秀治 (昭40)	田辺 芳夫 (昭40)
浜村 延明 (昭43)	中島 豊 (昭46)
中山 正仁 (昭46)	小林 明 (昭46)
日下部 弘子 (昭47)	川井 英樹 (昭50)

## Y 校 の 意 気

Y 校入学直後の応援練習から今日まで、代表的な応援歌「Y 校の意気」を内容も解らず、何度も歌ってきました。今回、加納和明元Y校先生(昭26Y卒)にご教示いただき、私なりに文語体の歌詞を現代の口語体に訳してみました。

それにしても、「Y 校の意気」は当時の Y 校生が作詞したとのことですが、Y 校生のレベルの高さに只々驚き尊敬するばかりです。安川 栄一 (昭44卒)

Y 校の意気は、Y 校生徒が作詞し、明治42年(1909年)美澤校長の還暦祝賀会で初めて唄われました。この原曲は明治34年(1901年)に制作された「アムール川の流血や」(旧制第1高校の寮歌)で、作曲は栗林宇一、更に曲の原型は永井建子(男)作曲の軍歌「小楠公」とのことです。

その後明治44年(1911年)、加藤明勝がこの曲を流用して「歩兵の本領」を作詞し、日本を代表する軍歌のひとつとして広く愛唱されました。

### — 歌 詞 の 解 釈 案 —

	歌 詞	解 釈 案
1	禁令固き御朱印の 影に結びて夢深し 黒潮御国を訪えど 覚むとしもなし200歳	幕府はキリスト教禁圧の為に出した海外渡航禁止令により朱印船貿易を禁止し、オランダ、中国等に限定する鎖国令を発した。そして日本は深い眠りについた。黒潮が変わらずに日本を訪れているが、外国の情勢、文化は運ばれて来ず、日本人はそれに気付かず深い眠りについていた。そして鎖国が解除され、眠りから覚めたといっても既に200年(鎖国期間1641年～1853年)が経ってしまっている。
2	浦賀の沖の砲声や 島根の春を誘いけん 万朶の花は香に匂い 千古の雪は色に映ゆ	ペリー艦隊が発する祝砲(礼砲)が島国日本の春(鎖国解除による開国)を誘い出し、垂れ下がった枝に咲いている満開の桜の花は香り、永久(とわ)の雪(富士山の雪)もひかり輝いている。
3	花彩の国の一角に YCS の旗高く 星霜ここに139年 盟は固し我が母校	花が彩る国、日本の一角に YCS の旗高く、年月ここに139年。盟(ちかい=誠の心)をしっかりと守る我が母校
4	旗色動かば忽ちに 鯨鯢吼ゆる北海や 猛虎雄叫ぶ南洋も 波蹴破りていざ行かん	旗色(形勢)が変われば即動く オス、メスのクジラが吠える北海や、猛虎が雄叫ぶ南洋も、波を蹴散らしいざ行かん。